

教授
梶原 江美

■ 学歴

1. 2003年 佐賀医科大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程修了

■ 学位

1. 2003年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 基礎看護学
2. 看護教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. ラテックスアレルギー
2. 看護基礎教育
3. ケアリング

■ 研究課題

1. ラテックスアレルギーの予防に関する研究
2. 看護基礎教育における効果的な教育方法に関する研究
3. ケアリングに関する研究

■ 担当授業科目

1. 看護技術論演習（前期）（看護学科）必修
2. 生活援助技術論演習（後期）（看護学科）必修
3. ヘルスアセスメント演習（後期）（看護学科）必修
4. 診療関連技術論演習（前期）（看護学科）必修
5. 看護過程論（前期）（看護学科）必修
6. 基礎看護学実習Ⅰ（後期）（看護学科）必修
7. 基礎看護学実習Ⅱ（前期）（看護学科）必修
8. 看護総合演習（前期・後期）（看護学科）必修
9. 看護総合実習（前期・後期）（看護学科）必修

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

- | | |
|----|----------------|
| 1. | 授業科目名【看護技術論演習】 |
|----|----------------|

	<p>演習では、事前の動画視聴を促すとともに実際にデモンストレーションでの要点の確認と身体の使い方について解説をしたのちに学生の実施に入るよう構成した。また、学生の実施の状況を見ながら、適宜、AV 機器を活用して技術の実際について解説を加えた。看護技術の原則の他、看護技術のコツについても実際に教員がやって見せながら指導することを心がけた。</p>
2.	<p>授業科目名【生活援助技術論演習】</p> <p>前期で学修した内容を相互演習での声かけやボディメカニクスでの活用、動画教材を予習として取り入れ、自分の日常生活行動の振り返りをして演習に臨む、演習開始時に要点を押さえて、実際に教員がやって見せながら助言を行い指導に活かした。Google フォームを活用し、学生から質問や意見を求めて必要時解説した。</p>
3.	<p>授業科目名【ヘルスアセスメント演習】</p> <p>演習指導や実技試験の評価を通して、看護形態機能学の知識に基づいたアセスメントの考え方を説明し、理解を深めていけるよう努めた。また、実技試験項目であるバイタルサインは、技術面として①コロトコフ音の聴取、②減圧時の指の巧緻性、③値の読み取りが学生の苦手部分となるため、重点的に助言をするよう心がけた。</p>
4.	<p>授業科目名【診療関連技術論演習】</p> <p>AV 機器を活用して要点を押さえる他、学生自身のピア学習の助言について学生の理解を確認しながら説明が不足する部分の助言を行った。また、無菌操作や酸素の取扱いが患者の命に直結することを意識して助言を行った。</p>
5.	<p>授業科目名【看護過程論】</p> <p>基礎看護学実習Ⅱと連動し、看護過程の基本的な考え方の他、地域包括ケアシステムの中に存在する患者として退院後の患者の生活を意識するように授業やワークを行う記録用紙に反映した。記録については記録要領を作成し理解を促した。また、授業での学習の理解度や進度に合わせて、授業の時間に教員のフィードバックを新たに設けるほか、学生の質問には個別に対応して理解を促した。</p>
6.	<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅰ】</p> <p>基礎看護学実習Ⅰは、1年次後期必修科目1単位の実習形式で行う。</p> <p>1週間ずつ2施設での実習施設との調整を経て、実習指導を行った。初めて担当患者をもって患者と接する実習であるため、学生の不安をやわらげながらも適度の緊張を持ちつつ、実習が円滑に進むよう実習指導者との調整を行った。</p>
7.	<p>授業科目名【基礎看護学実習Ⅱ】</p> <p>基礎看護学実習Ⅱは、2年次前期必修科目2単位の実習形式で行う。</p> <p>他領域の助教助手の支援も仰ぎ、2週間にわたって担当患者（学生2名に対して1名の患者）の看護過程の展開の指導を行った。看護過程論での学びを活かし、日々変化する患者の状態についての解説を行うなど実習指導者と調整しながら実習を進めた。</p>
8.	<p>授業科目名【看護総合演習】</p> <p>ゼミ生6名に対して、看護総合実習に向けて、テーマ選択から文献収集、文献を用いた抄読会を実施し、実習目的を達成するための学習力や発信力（プレゼンおよび討議）を意図した関わりを行った。また、実習後は、実習成果の発表に向けた資料準備などを通して実習を通して関心を持った自分のテーマについての思考を整理につなげた。併せて、次年度は看護師として働いていることを想定した意識づけや国家試験対策についても支援した。</p>
9.	<p>授業科目名【看護総合実習】</p>

学生が複数の患者を受け持つ、実習の中で自ら看護師と調整をする、チーム医療を考える機会とするなど目的意識を持って自ら学ぶ実習にすることを目指して支援した。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1996年4月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2000年9月～現在に至る	日本看護研究学会会員	
3.	2003年3月～現在に至る	日本看護科学学会会員	
	2003年5月～現在に至る	日本看護診断学会会員	
	2005年4月～現在に至る	日本看護学教育学会会員	
	2010年4月～現在に至る	日本看護技術学会会員	選挙管理委員会委員(2021年7月～2023年)
	2011年2月～現在に至る	日本看護倫理学会会員	
	2011年12月～現在に至る	STTI会員	
	2012年7月～現在に至る	日本看護管理学会会員	
	2015年4月～現在に至る	日本ラテックスアレルギー研究会会員	
	2019年～現在に至る	特定非営利活動法人日本コ克蘭センター	
	2018年5月～現在に至る	日本看護福祉学会	
	2020年2月～現在に至る	日本医療・病院管理学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.					
2.					
3.					
（学術論文）					
1.	2023. 4	看護師との関わりを通して得た患者のケアリング体験	共	日本看護倫理学会誌 15巻1号 P.31～P.39	看護師との関わりにおける患者のケアリング体験を明らかにするために、入院経験のある対象者に半構造的面接を行い分析した。テーマ分析の結果、4つのテーマおよび7つのサブテーマが生成された。患者のケアリング体験を深化させるためには、個の看護師の態度や専門性の向上に加え、組織的スキルの向上が必

					要であることが示唆された。 共著者：小野聡子，伊東美佐江，村上京子，梶原江美 本人担当部分：研究代表者や共同研究者とともに結果考察の検討を行った。
2.					
3.					
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.					
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	ラテックスアレルギー予防に向けたタンパク質フリー天然ゴム素材の開発	文部科学省 科学研究費補助金 基盤研究 (C)	○梶原江美 (山本祥正、飯野英親)	4,290,000 円
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

任期 期間等	団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等

1.	2023 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会	座長
2.	2023 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会	実行委員
3.			

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2022 年 4 月～現在に至る	入学試験会議	
2.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	紀要委員会	委員長
3.	2023 年 10 月～現在に至る	大学将来構想ワーキンググループ	
4.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	内部監査委員会	責任者
5.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	外部資金導入促進プロジェクト	
6.	2022 年 4 月～現在に至る	学科プロジェクト	科目運営リーダー
7.	2023 年 4 月～2024 年 3 月	入学前課題検討会	
8.	2022 年 4 月～2024 年 3 月	1 年生アドバイザー	リーダー
9.	2022 年 4 月～現在に至る	4 年生アドバイザー	